



▲島本社長は、あらゆる業界にアンテナを張り、世の中の動向よりも少し先の提案を心がけるといふ



▲様々な角度に対応できる卓上パネルパーテーション「足動くん」



▲独自のアルミシステム材「Alframe (アルフレーム)」は様々な組合せが可能  
写真は、飛沫感染防止用ビニールパーテーション「パテンジャー」としての設置例

# 株式会社エーディエフ デザイン力が強みの アルミ製品メーカー

## 創意工夫で顧客の「あったらいいな」を実現

「私たちは特定の業界にこだわらず、時代の変化にいち早く反応し、様々なものを製作してきました」。アルミニウムフレームメーカー、エーディエフ（ADF）の島本敏社長はこう切り出す。2020年8月に発売した、飲食店向けの新型コロナウイルス飛沫感染防止用ビニールパーテーション「パテンジャー」も、そういった製品の1つだろう。高さ140cmのアルミニウム製支柱を軸に、4方向に自由に横バーを取り付けることができ、パーテーション部分となるビニールは横バーに差し込むだけで済む。ビニールはバーに巻き付ければ長さも変えられる。カウンター席にもテーブル席にも掘りごたつ席にも対応できる自在性が特徴だ。飛沫感染防止策が不要になったときは、ビニールを取り外して看板やメニュースタンドなどパーテーション用途以外でも利用することができ、アフターコロナまでを見越した商品と評判が良い。実はこの製品は、ある天ぷら料理店からの相談を受けて開発した。飛沫感染防止のためパー

テーションを検討したいが席が3つのタイプに分かれている。パーテーションの形状を変えなければならず、予算がどれくらいかかるか不安」といった内容だ。1種類の商品で形状を自在に変えられるため、コストパフォーマンスが高い。

### アルミの特性を生かす

このように「こんなものがあつたらいいな」を形にするのがエーディエフの特徴だ。1999年の会社設立以来、オーダーメイドを主軸にアルミニウムフレームから派生する製品をつくり続けてきた。エーディエフの社名は、アルミニウム・デザイン・ファクトリー（工房）の略。その名の通りアルミフレームを軸に、世の中にあるものを企画・開発して、顧客の「あったらいいな」を形にし、困りごとを解決している。「他社と同じものをつくらない。常識に捉われない発想力で、世界をあっと驚かせるものをつくる」が島本社長の信条。最近では、社員が自ら「あったらいいな」を提案して顧客に提案する「発信型」のモノづくりにも力を入れている。例えば、同社は飲食店向けのパーテーションを発売する前に、病院や役所などの待ち合い用ベンチに使う、バーが2本のパーテーションを開発している。これはソーシャルディスタンスを保つため席を1人分飛ばして使っている病院のベンチに、不便さを感じた社員が自ら発案した製品だ。

エーディエフの実質的な創業者は、島本社長の父親である。アルミ加工業を営んでいた父親が「加工業ではなくメーカーになる」と同社を立ち上げた。といっても「経営は私にさせよう」と立ち上げた会社なので、父自身は社長にはなっていない。2年ほど他の人に社長になってもらい、その後、私が社長職を引き継いで、いまに至っています」と島本社長はいう。父親が実質的な創業者というのは、そういう意味である。その父親が強調していたのは、「型材断面のデザイン次第で、いくらでも工夫することができる」という、アルミニウム





▲アルミシステム材などを用いた製造の様子

COMPANY HISTORY

- 1999年 エーディエフ設立、アルミシステム材「アルフレーム」、オールアルミ製軒先融雪器「スノーエール」開発
- 2001年 資本金を3200万円に増資
- 2004年 折畳み式物流BOX「Dan Cargo」開発、工場を西淀川区御幣島へ移転
- 2005年 簡易ルーム材の開発
- 2007年 クリーンルーム業界へ参入
- 2011年 西淀川区福町へ新社屋建設・本社を移転
- 2012年 メディカル業界へ参入
- 2013年 食品業界へ参入
- 2014年 フィリピンでの海外営業活動を開始、折畳み式物流BOX「Dan Cargo」「ダン・カーゴ」の2つで商標取得
- 2015年 防音囲いの構造を開発
- 2017年 簡易ルーム材を「E-Room+（イールームプラス）」として商標取得
- 2018年 折畳み式物流BOX「Dan Cargo」が2つ目の特許取得、簡易キャリー台車「ちよいカーゴ」商標取得
- 2019年 組立式アルミパレット「クミパレ」特許取得、防音囲いが「同時通訳ブース」としてG20大阪サミットで採用
- 2020年 陰圧ルーム用排気装置を開発

COMPANY PROFILE

- 代表者 代表取締役 島本 敏
- 住所 〒555-0034 大阪府大阪市西淀川区福町 1-1-22
- 設立 1999年2月
- 資本金 3200万円
- 事業内容 アルミ製品の設計・製造・販売、アルミ押し出し材の設計
- URL : <https://adf-al.com/>

「機を見るに敏」

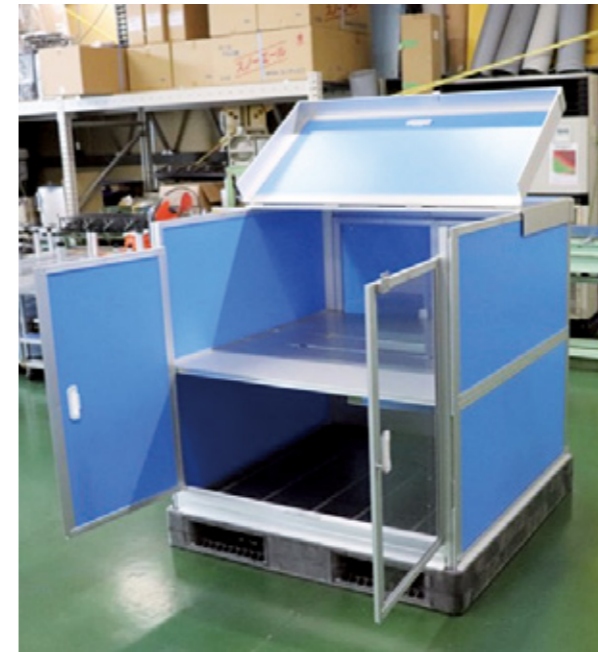
島本敏

「機を見るに敏」という言葉は、創業以来の姿勢が、島本社長のいう「経営環境が厳しくても業績が落ちない」最大の理由であろう。顧客の「あったらいいな」をくみ取り実現させるのは、営業も製作も受け持つ同社のセールスエンジニアたちだが、もちろん発想力は一朝一夕で高められるものではない。創意工夫によるモノづくりが好きで、誇りを持つ人が集まっている会社だからこそ、社員全員による切磋琢磨の場で発想力が高まり、「あつ

たらいい」が実現できるのだ。社員は常に「挑戦心」「変化自在」「お客様に感動を」という、3つのキーワードが書かれたカードを携帯して仕事に当たる。「与えられた仕事をこなすだけの人は、当社には向きません。モノづくりで顧客に感動を与えるという夢を持ち続け、実現させたいという社員ばかりです」とまで島本社長は言い切る。ちなみに、島本社長の座右の銘は「機を見るに敏」。「好都合な状況や時期をすばやく掴み、的確に行動するさま」という意であり、この言葉を胸に刻み、ま

た、自身の「敏」という名前の通り、世の中にならぬ発想での提案を心がけているという。これを社員と共有できているところが同社の強みがある。同時通訳ブースに期待かかる 同社の次の夢は、2019年に投入した「同時通訳ブース」の普及。重量が90kgと軽く、短時間で簡単に組み立てることが可能。しかも、音が外に漏れないという、アルミフレームの特徴をいかに発揮したブースだ。すでに19年に大阪で開催さ

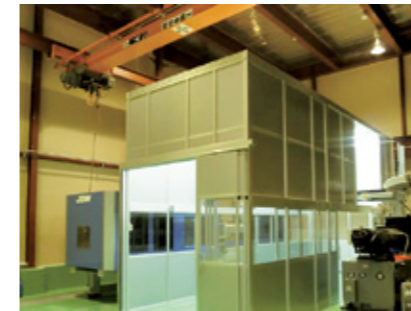
れたG20（20カ国・地域首脳会議）での採用実績がある。さらに期待が高まるのが、21年に延期された東京オリンピック・パラリンピックでの採用。新型コロナウイルスの感染拡大が収束すれば、日本における国際会議や展示会の開催など、MICEの誘致熱が高まることが予想され、同時通訳ブースの活躍への夢は膨らむ。超軽量という特徴に、フランスの音響機器メーカーも関心を示しているという。24年のパリオリンピックにも採用されれば、それこそ「世界をあとと驚かせる」だろう。



▲2104年開発の折畳み式物流ボックス「Dan Cargo」



▲「アルフレーム」を用いた棚



▲天井クレーン走行ぎりぎりの高さで設置できる



▲ダクトを室内に設置することで空気の流れを均一にできる



▲キャスター付きの簡易クリーンルーム「E-Room+」

切磋琢磨で発想力高める 自社のオリジナルフレームにはない形状でも、イチから新しいフレームをデザインして提供できるという強みがあれば、顧客は既存の部品だけにこだわらず、ニーズを伝えてきてくれるだけで、新製品を開発することができる。「折りたためる通い箱をつくって欲しくないか」「独立した仕事部屋が欲しい」。そんな要望に応じて開発したのが、折り畳み式の物流ボックス「Dan Cargo（ダンカーゴ）」であり、工場の必要がないワークルームの「簡易ルーム」であり、同社を象徴するブランドともなっている。

積みでき運搬効率上がる、軽く丈夫、段積みしてもつぶれない強度がある、といった特徴を持つ。これらの特徴を求めている食品・医薬品・化粧品メーカーなどへの納入実績が多いが、特にセキュリティ強化のために開発した「鍵付きDan Cargo」が商品の管理責任が大きい医薬品・化粧品メーカー向けに伸びている。

Dan Cargoは、組立が簡単、段積みできない物が段

力武器に協業し合いながら少